

氏名 佐藤順子

職位 教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
社会福祉学概論Ⅱ	53	地域福祉論Ⅰ	49
総合演習Ⅰ（社・佐藤）	3	総合演習Ⅱ（社・佐藤）	12
総合演習Ⅲ（社・佐藤）	8	社会福祉学概論Ⅰ	56
ソーシャルワーク演習Ⅴ（21SW）	50	ソーシャルワーク演習Ⅴ（20SW 編入生）	10
地域福祉論Ⅱ	49		

### 2. 理念

大学で社会福祉を学び、地域福祉推進の中核機関である社会福祉協議会で15年コミュニティワーカーとして携わった。その後大学院での学びをとおして自己の実践を総括し、以降自治型地域福祉推進を目的に福祉コミュニティ形成を図ることのできるソーシャルワーク育成を教育の目標としてきた。単なる社会福祉士国家試験受験資格取得のための学びではなく、地域福祉政策を含む福祉政策の動向、課題を歴史的な文脈で捉え、その中で問題意識をもちながら当事者、住民とともに地域生活課題解決に取り組むことのできる援助者になることを学生には期待している。

### 3. 方法

社会福祉、地域福祉の価値、理念の理解をベースに、社会経済状況の変化に規定されながら社会福祉・地域福祉政策がどのように変遷して今に至るのか、を理解するために、教材として独自の年表を作成し、学生が理解しやすいよう工夫している。また、知識として覚えるべきことがらも多いが、授業では学生が少しでも具体的に興味関心や問題意識を深めることができるよう、発問を工夫し、考える力を養成するよう努めている。また適宜知識の定着状況について国試の過去問等を利用し確認している。

### 4. 成果

GPA、授業評価ともに到達度としては問題ないが、学生自身の目標達成、成長実感については課題がある（地域福祉論Ⅰについては、新カリキュラム対応初年だったため、

前年度との単純な比較はできない)。

#### 5. 改善

科目の目標について繰り返し明示し、理解すべき内容を確認することを心がける。また学生の学力差に配慮した授業を工夫する必要がある。

#### 6. 教育活動

地域実践アクティブラーニングとして、地域の子ども食堂支援プログラムを実施している。2024年度は、参加メンバーに声掛けし、支援継続のためのサークル化を浜松市社協で子ども食堂、学習支援を担当している卒業生の力を借りながら実現する予定である。

氏名 福田俊子

職位 教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
ボランティア論	157	地域ケア連携演習	96
キャリアデザイン（社会福祉学部）	237	ソーシャルワーク論II	52
総合演習I（社・福田）	2	総合演習II（社・福田）	21
総合演習III（社・福田）	14	ソーシャルワーク演習IV	50
ソーシャルワーク演習VI	57	ソーシャルワーク論I	55
インターンシップI（SW）	32	インターンシップI実習指導	32
社会福祉演習	33	臨床原論	57
福祉実習I（SW）	2		

### 2. 理念

#### 1. 授業で大切にしていること

国家試験に合格するために必要とされる知識だけでは、「他者の痛み」を感受しながら寄り添う支援をすることはできません。「講義・演習科目」では、多様な「人の生の営み」と出会うことで、学生自身が、他者や自身の生活や人生を考えつづける姿勢を養うことができる授業づくりを目指している。「実習科目」では、自分の無力感を抱くことの多い学生に対して、なるべく自分の強みに着目できるようにサポートすることを心がけている。

#### 2. 学生に対して思うこと

自分にはさまざまな「可能性」があることに気づき、広い視野で事象を捉えていける人になることを願っています。

### 3. 方法

昨年度とほぼ同様の方法で授業を展開した。

#### 1. 授業方法

1) 講義：学生が「考えること」と「覚えること」を楽しみながら無理なくできることを重視した授業を展開した。

2) 演習：学生が、グループとしてのまとまりを意識ながら課題を達成できるよう授業を展開した。

3) 実習：「インターンシップI」では、社会福祉士実習の準備実習としての機能を果たせるよう配属実習及び事前・事後学習を展開した。

#### 2. 授業・教材の工夫

- 1) 講義：学生が事前・事後学習に取り組みやすいよう、各授業で使用するレジメすべてをまとめて冊子にし、初回授業で配布した。
- 2) 演習：学生に各回の達成課題を明確に伝え、各グループが課題へ取り組んだ成果を積極的にフィードバックした。
- 3) 実習：コロナが落ち着きを見せてきたことから、実習日数を増加し9日間とした。

#### 4. 成果

##### 1. 授業評価等の結果をふまえた考察

授業評価が概ね肯定的な評価であったことから、授業方法等の基本的な方向性に誤りはなかったと認識している。

##### 2. 授業の工夫による学生の態度の変化

講義・演習科目については、はっきりとした変化として掴めることは多くないものの、レジメ全てを冊子にしたことは、学生からは授業内容を整理しやすく、落ち着いて授業に臨めたとの声をもらった。演習科目では、グループによりメンバーの参加度に差が見られた。

実習科目である「インターンシップⅠ」については、実習日数を増加させたことで、学生の実習体験に深まりが見られた。

#### 5. 改善

演習科目において、メンバーの参加度に差がなるべく出ないように、学生がファシリテーションを意識しながらグループに関与できる授業展開を意識する。

#### 6. 教育活動

##### 1. アドバイザー

2年生、3・4年生を担当している。最低、年に2回の面談を実施している。親とは異なる大人の立場を活かして、学生の悩みなどを聴くように心がけている。

##### 2. 部活動

フットサルサークル、ボランティアサークルの顧問をしている。

##### 3. その他

病気や障がいがある兄弟姉妹をもつ「きょうだい」の支援を行っている。

氏名 川向雅弘

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
ソーシャルワーク演習Ⅱ（SW）	53	総合演習Ⅰ（社・川向）	4
総合演習Ⅱ（社・川向）	12	総合演習Ⅲ（社・川向）	8
ソーシャルワーク論Ⅲ	59	ソーシャルワーク論Ⅳ	55
障害者福祉論	50	就労支援論	5
ジョブコーチ論	12	社会福祉原論	46

2. 理念

社会福祉の価値と倫理を体現すること。

3. 方法

社会福祉の価値と倫理を問い直し内省的な思考の獲得を意識して講義の中での問いを工夫したこと。

4. 成果

新たな気づきや自身の内省的な問い直しがリアクションペーパーに現れていることが多かった。

5. 改善

なるべく平易に解説すること。

6. 教育活動

3年生春 semester アドバイザー、4年生ゼミ、実習指導（障がい者支援領域）

氏名 大場義貴

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
スクールソーシャルワーク実習指導 (20SW)	5	スクールソーシャルワーク実習 (20SW)	5
総合演習 I (社・大場)	5	総合演習 II (社・大場)	3
総合演習 III (社・大場)	2	精神保健ソーシャルワーク演習 I	12
精神保健ソーシャルワーク演習 II	24	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II	16
精神保健生活支援システム論	36	精神障害リハビリテーション II	12
スクールソーシャルワーク実習指導 (21SW)	1	スクールソーシャルワーク実習 (21SW)	1
ライフサイクルとソーシャルワーク	38		

2. 理念

精神保健福祉/公認心理師/SSW の理念・価値・知識・技術等を用いて、精神障害や精神保健上の課題を有する人たちとその家族などに対し、心理・社会的支援を提供し、満たされないニーズに対しては社会資源開発ができる人材を育成し、対象者や家族の QOL の向上を図る。

3. 方法

知識・理論を講義により修得、対象や課題に応じた実践力を実習取得。これらを演習で統合化してしていく。特に、4年次8セメの精神保健ソーシャルワーク演習 II は、学生同士で事例を作成し、進行し、参加し、観察し、更にそれらを評価する、主体的な学修の場としている。

4. 成果

GPA は概ね 3。但し、履修登録後、履修中止や失格等になる学生が複数いる科目は、GPA が下がってしまう。事前・事後学修は定着してきている。

## 5. 改善

精神保健福祉領域の教育は、高度でかつ適否があるため、選考と履修に関しては、学科会議などを通して教員間のコンセンサスを作り、その上で学生にアナウンスをしていく。

## 6. 教育活動

アドバイザー（2年、3年、4年）、サークル顧問（2ぴいす）。地域アクティブラーニング

氏名 野田由佳里

職位 教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習Ⅰ（社・野田）	3	総合演習Ⅱ（社・野田）	6
総合演習Ⅲ（社・野田）	4	高齢者福祉論	53
介護福祉論（20SW 編入生）	1	介護福祉論（23SW）	16
人間の尊厳と自立	18	介護過程Ⅰ	27
介護過程Ⅱ	22	介護過程Ⅲ	17
介護総合演習Ⅰ	14		

### 2. 理念

隣人愛・・・弱者に寄り添える・・・専門職者として・・・人として・・・尊厳とは・・・社会福祉という個人のリスクを社会全体で支えるとは何か、特にその人らしさを大切にす  
る支援とは何かを伝える教育を目指しています。社会福祉士及び介護福祉士教育において、  
支えられる経験が支える援助職として醸成されることを望みます。学生に対しては常に笑  
顔で接したいと心掛けています。優しく、楽しくあることを信条としていますが、生活支援  
技術などをする際は「命」を取り扱う仕事として厳しい面も必要かと考えています。

### 3. 方法

学生が主体的に過ごすためには・・・他者の存在を意識する・・・学生組織という形の利  
用・・・思考する機会を大切にしています。アクティブラーニング、リラックスした中で学  
びを深める機会を多く持ちたいと考えております。

### 4. 成果

学生が学べる・・・学生が課題を選ぶことができる・・・学生の興味・関心・適性・理解  
度を意識しながら学習を進めることを意識しています。

### 5. 改善

教員としての個別性を意識する

## 6. 教育活動

7月19日メモ：実習指導において・・・個別性を意識する・・・アドバイザーとして、親近感を持てることを意識しています。また、何でも相談できるような雰囲気づくりや関係性も大切だと思っています。細く長く丁寧に個別性を重んじながら接するのが信条です。ボランティア活動を背局的に行っています。特に力を入れていることは、施設イベントのサポート、放課後デイのサポート、教員自身が携わっていることも食堂などの活動支援にも注力しています。

氏名 佐々木正和

職位 准教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
社会福祉概論	158	精神保健ソーシャルワーク実習指導（20SW）	13
総合演習Ⅰ（社・佐々木）	7	総合演習Ⅱ（社・佐々木）	18
総合演習Ⅲ（社・佐々木）	12	精神保健福祉演習Ⅰ	14
精神保健福祉実習指導Ⅰ	14	精神保健ソーシャルワーク実習	24
精神保健福祉の原理Ⅰ	35	精神保健福祉の原理Ⅱ	29
ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	23		

2. 理念

専門職としての学びを伝えていく

3. 方法

具体的な事例や支援方法について説明していく

4. 成果

実習や現場での仕事の中で気づけていける

5. 改善

学生からの評価を基にさらなる授業改善を行う。

6. 教育活動

様々な教育活動を実践していく。

氏名 落合克能

職位 准教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習Ⅰ（社・落合）	2	総合演習Ⅱ（社・落合）	21
総合演習Ⅲ（社・落合）	14	ソーシャルワーク演習Ⅲ	50
社会福祉経営論	53	社会福祉調査論	49
ソーシャルワーク実習	15	ソーシャルワーク実習Ⅰ	42
ソーシャルワーク実習Ⅱ	30	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	50
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	47	介護福祉管理論	14
トップマネジメント論	27	ケアマネジメント	20

### 2. 理念

<社会福祉調査論><社会福祉経営論>

社会福祉調査や福祉サービスのマネジメントといったいわゆる間接援助技術は、福祉サービス利用者に直接かかわる科目と違い、福祉実践におけるイメージが持ちにくいこともあり、履修者の学習モチベーションが湧きにくい科目です。しかしながら、福祉サービス提供組織に就職後、これらの知識やスキルは、地域の福祉ニーズを把握したり、質の高いサービスを提供するために役立つスキルです。また、国家試験の指定科目でもあるため、授業を通して基礎的な力をつけてもらうことは重要なことだと考えています。

### 3. 方法

両科目とも、実際の国家試験の問題を解く機会を設けて、授業内容との関連性がイメージしやすいようにしています。また、当該科目を学ぶことを意義を伝えるよう心がけています。社会調査論では、映像を用いて実際の調査をイメージしやすくしたり、分析手法を演習形式で体験してもらえるようにします。また、社会福祉経営論では聖隷福祉事業団のトップマネージャーの方々に実践内容をご講義いただくことにより、より実践的なイメージをもってもらえるようにしています。

### 4. 成果

社会調査論は、4年になって受験する社会福祉士国試対策の模試で、他の科目に比して正答率が高く、全国受験者の平均点との比較とした場合にも、良好な成績を取ることができています。また、授業の開始時に苦手意識を持っていた方も、授業後には苦手意識が低減し

ています。社会福祉経営論に関しては、履修者の皆さんが、聖隷福祉事業団のトップマネージャーの方々のご講義に感銘を受け、マネジメントの重要性を認識できるようになっています。

## 5. 改善

社会福祉調査論では、今後、データサイエンスでデータ処理をしっかり学ぶことができる履修者に対して、社会福祉調査の意義や実践のイメージをもってもらえることができるよう工夫していきます。そういった意味で新カリキュラムから学修範囲に位置付けられた評価手法（プログラム評価など）に関しても大切にしていきます。社会福祉経営論では、実践的な講義と教科書（理論）的な学修との関連付けをさらに工夫し、国家試験対策にまでつなげるための方法を考案中です。

## 6. 教育活動

社会福祉士会において実践研究委員となっており、社会福祉実践者が行う実践研究の支援を行っています。また、複数の社会福祉法人やNPO法人の役員（理事・監事）や評議員、アドバイザー等を務めており、研究、教育活動に活かしています。2018年度からは、高齢者介護施設の職員の方々と、施設内虐待を予防するための研修プログラムの開発研究を行っています。

氏名 泉谷朋子

職位 准教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
児童・家庭福祉論	79	総合演習Ⅰ（社・泉谷）	7
総合演習Ⅱ（社・泉谷）	21	総合演習Ⅲ（社・泉谷）	14
基礎演習Ⅰ（SW・泉谷）	17	基礎演習Ⅱ（SW・泉谷）	17
ソーシャルワーク演習Ⅰ	55	スクール（学校）ソーシャルワーク論	9
児童・家庭支援とソーシャルワーク	5	子ども家庭支援論	22
社会的養護Ⅱ	28		

### 2. 理念

教員は社会福祉現場経験を有している。学生が卒業後実践現場に出て大学で学んだことを発揮できるよう、実践場面を視野に入れて講義・演習等を行うことを意識している。

与えられた課題をこなすことには長けているが、興味関心のあることを主体的に学ぶ姿勢が弱い学生が多いように感じている。大学の学修は、学生が主体的に行うものとするため、学生の主体性を促すよう働きかけている。

### 3. 方法

履修者が50名以上の科目では、講義形式の授業を行うが、学生が授業に主体的に参加できるように、他の学生と講義科目では、学生が一方的に講義を受けるのではなく、学生同士意見交換する時間を設ける、学生に正解を求めるような質問を出すようにしている。授業では毎回WebClassでリアクションの提出を求めているが、科目によっては事後学習として授業内容の要約作成を課し、学生の理解状況を確認している。

履修者が50名以下の科目では、アクティブラーニングを基本とした授業を実施している。また、学年・学科の特徴に合わせて授業方法を検討している。

### 4. 成果

アクティブラーニングを取り入れた授業では、学生が自分の意見を述べるだけでなく、その根拠となることを調べたり、他の学生の意見を踏まえ、自分の考えを振り返る様子が見られた。リアクションペーパー等を見ると考察力がついたことがわかる。また、授業内容の要

約作成では、限られた文字数で必要な内容をまとめる力がついたことが確認できた。

## 5. 改善

新聞記事や Web コンテンツ等を活用し、学んでいることが社会の中でどのように扱われているのか等学生達が確認・認識できるような工夫が必要だと感じる。自分が学んでいることが社会の中でどのように位置づけられるか知ること、学修意欲の低下を防ぐことが出来ると考える。

## 6. 教育活動

1 年生、3, 4 年生の総合演習学生のアドバイザーをしている。1 年生については、高校生活と異なることが多く、戸惑うことがあると思うため、大学で学ぶことの意義を理解できるようサポートしていきたい。2, 3 年生については、学生が関心あることを実践等できるようサポートしていきたい。学生生活でのつまずきを少なくするよう、学生相談室等と連携して学生をサポートしていきたい。

氏名 篠崎良勝

職位 准教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習Ⅰ（社・篠崎）	3	総合演習Ⅱ（社・篠崎）	15
総合演習Ⅲ（社・篠崎）	10	基礎演習Ⅰ（SW・篠崎）	18
基礎演習Ⅱ（SW・篠崎）	18	介護の基本Ⅲ	17
認知症の理解Ⅰ	33	認知症の理解Ⅱ	10
生活支援技術Ⅲ	15	介護過程Ⅳ	17
介護総合演習Ⅱ	14	介護福祉実践演習	8

### 2. 理念

介護福祉を志す学生に対して、「介護」と「介護福祉」の違いを強く意識できる人材を育成していくために、「観察」の重要性を具体的に伝えていく。

そのうえで、「気づかれない実践」「気づかせない実践」を学生が体感できるようにしていくことを教育理念としている。

### 3. 方法

「介護福祉」は、観察からはじまり、観察で終わると言われているが、その具体的な理論である「P.E.I.P.モデル」を用いていった。

### 4. 成果

リアクションペーパーを読む限りでは、自らの気づきを促す教育はできつつあると思われる。

「介護福祉」の実践に向けた「P.E.I.P.モデル」の有効性を学生に伝わっていると考える。

### 5. 改善

支援実践後の「評価」のフォーマットに関しては、改善の余地があると考えている。

### 6. 教育活動

1年生アドバイザー

氏名 井川淳史

職位 准教授

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
介護総合演習Ⅱ	16	介護総合演習Ⅳ	14
介護実習Ⅱ	16	総合演習Ⅰ（社・井川）	7
総合演習Ⅱ（社・井川）	18	総合演習Ⅲ（社・井川）	12
介護の基本Ⅰ	29	介護の基本Ⅱ	17
介護の基本Ⅵ	8	障害の理解	24
コミュニケーション技術Ⅰ	40	コミュニケーション技術Ⅱ	22
介護総合演習Ⅳ	17	介護実習Ⅰ	28
介護実習Ⅱ	13	介護実習Ⅲ	32

### 2. 理念

福祉専門職等に就くための必要な知識、理論、技術、倫理観を習得してもらうために、講義や演習、実習教育を展開している。大学生の皆さんは、ちょうど年齢的にペタゴジー（幼少期からの学び方）からアンドラゴジー（大人にとって必要な学び方）への変遷過程にあると思う。したがって、人としても成長していく時期であり、学修したいこと（自らの課題）を見つける、もしくは自分を知ること（自己覚知）ができるような能動的学修が求められると考えている。そのため、私が教育で大切にしていることは、ティーチングだけでなく、コーチングによる学修も必要であり、学生自身が思考し動機づけができるような環境整備（土台造り）を行うという点である。私自身は、声量が大きく積極的に学生の皆さんに声掛けていくことをモットーとしている。

### 3. 方法

私の授業方法は、まず単元で習得すべき目標を明確にし、事前事後課題と80分講義の重要性を明示する。実際に、スライドおよびレジュメを利用し、時には画像や動画等も用いてリアリティによる視覚的理解を促している。また、講義では単元に合わせたテーマを授業の最初に設定し、最近の話題（新聞記事、ニュース、書籍紹介）を提供し、学生自身の考えや意見を発表もしくは記述による方法で伝える機会を設けている。演習では、講義で学んできた内容についてテーマ設定し、知識や理論等が連結するよう、学びの定着をはじめとした学修の質的担保を図っている。

#### 4. 成果

講義による画像や動画視聴、および演習時における活動的取り組みは、学生にとって学修の習熟度が向上しているとみられ、GPA および授業評価にも表れている。しかし、実習のように体験的学びによって、自ら思考し学生の能動的学習の動機づけとなっているのか、まだ明確に繋がっているとは言い切れない状況である。

#### 5. 改善

講義科目によっては、ティーチングが主体となる傾向にあり、発問もクローズドクエスチョンが中心となることもある。したがって、できるだけオープンクエスチョンとして意見や考え、感じたことを発言する機会を設定していく必要がある。つまり、教員から学生への一方通行ではなく、能動的な学修意欲がもてる双方向の講義に心がけていきたいと考えている。実習教育については、特に事後指導において振り返りや体験的に学んだことを、言葉にして発言する機会について実習報告会以外でも設ける様にする。

#### 6. 教育活動

今年度は、3年次生7名、4年次生6名の計13名のアドバイザー（ゼミ生）を担当し、面談およびゼミ活動を通して、主に学修面や学生生活、進路相談等のサポートを実施。担当科目（学年、履修者数、GPA）は、介護の基本Ⅰ（1年、29名、3.11）、介護の基本Ⅱ（1年、17名、3.08）、介護の基本Ⅵ（4年、8名、2.78）、コミュニケーション技術Ⅰ（1年、40名、3.65）、コミュニケーション技術Ⅱ（2年他、20名、2.76）、障害の理解（3年、24名、3.2、専門学校1年23名）、障害者福祉論（専門学校2年20名）、介護総合演習Ⅳ（2年他、17名、3.11）を担当した。介護実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについては、科目責任者として（介護福祉コース1年14名、2年13名）を担当し、コース教員全員との連携および協力のもと進めてきた。

氏名 小畑美穂

職位 助教

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
医療ソーシャルワーク実習指導 (20SW)	12	医療ソーシャルワーク実習 (20SW)	12
総合演習 I (社・小畑)	6	総合演習 II (社・小畑)	21
総合演習 III (社・小畑)	14	基礎演習 I (SW・小畑)	17
基礎演習 II (SW・小畑)	16	社会福祉入門	52
公的扶助論	53	医療福祉論	51
医療ソーシャルワーク演習	11	福祉実習 IV	5

### 2. 理念

- 1、かかわりの中で自分を知り、他者を知るという相互の関係性を体験し学んでほしい
- 2、謙虚な姿勢
- 3、科目が掲げるテーマを通して、自らの興味・関心を膨らませてほしい
- 4、自分ごととして、知識を獲得してほしい
- 5、「なぜ？ どうして？」と疑問をもち、主体的に調べ、学んでほしい

### 3. 方法

- ・講義と演習、デジタルコンテンツを織り交ぜ授業を構成している
- ・毎回、授業の初めに当該授業の到達目標を提示している
- ・原則、スライドを使用した授業 (WebClass)、必要に応じて資料を配布している
- ・学生が自ら調べ学修ができるよう、スライドで根拠資料等を明確に提示している
- ・授業最後に次回テーマの予習課題を提示している
- ・中盤の第 8 回目に中間レポート／中間テストを提示している
- ・リアクションペーパーを活用し、当該授業の学び・質問・感想を振り返り、知識の整理を行っている
- ・学生の学び、質問を学生全員に対し共有できる振り返りの時間を、次回時の授業で提供している
- ・3年生に対して、週 1 回のゼミ等を通して、自身の興味関心が明確化する研究指導を行っている

- ・4年生に対して、週1回のゼミ等を通じて、研究指導、国試対策、就職支援を行っている
- ・アドバイザーとして、各学年の割り当てられた学生に対して履修指導を行っている

#### 4. 成果

- 1) 平均 GPA2.4 以上
- 2) 授業評価 3.0 以上

#### 5. 改善

- ・復習課題（重要なキーワードを空白にした資料や）を取り入れ、知識の定着化
- ・授業への主体的参加、質問しやすい環境の検討
- ・学生自ら達成感が感じられる仕組みづくりの検討
- ・当該授業の毎回のレジュメづくりについて検討

#### 6. 教育活動

- ・アドバイザーとして各アドバイザーが不安なく落ち着いた学校／学生生活を送れるよう、また学修意欲が促進されるよう丁寧なサポートを心がけている。
- ・国際保健医療福祉プログラム（副専攻）および海外研修に向けた学修および活動のサポートを担っている
- ・国試対策委員として模試を中心に合格へ向けた取り組みを行っている。

氏名 水野尚美

職位 助教

### 1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
人体の構造と機能及び疾病	72	総合演習Ⅱ（社・水野）	3
総合演習Ⅲ（社・水野）	2	発達と老化Ⅰ	17
発達と老化Ⅱ	9	こころとからだⅠ	27
こころとからだⅡ	22	こころとからだⅢ	8
医療的ケアⅠ	16	医療的ケアⅡ	13
医療的ケアⅢ	13	生活支援技術Ⅱ	14
介護総合演習Ⅲ	32		

### 2. 理念

基礎的な知識を身につける授業を担当しているため、関連する科目同士の関連性に意識が向くような授業を心掛けています。

### 3. 方法

こころとからだのしくみや発達と老化の理解などの授業内でも介護過程の展開を用いたり、グループワークによる調べ学習を取り入れています。

### 4. 成果

科目間の連動や現場での知識の活用のため、記憶力を求める学習であり、その点を確認する課題が多いため、授業評価としては、低値にあると考えます。しかし、授業スタイルを変化させていることで、昨年度よりやや上昇したと思えます。

### 5. 改善

調べ学習やグループワークの機会を増やしました。また、項目ごとの関連性を整理し直し、分かりやすく伝えることを心掛けました。

### 6. 教育活動

学外での初任者研修講師